



日耳鼻医会 FAXニュース

平成29年5月8日発行 第250号

◎第42回臨床家フォーラム案内(再案内)

- ・創立50周年記念式典・祝賀会 7月15日(土)
記念式典・記念講演: 午後4時半～
記念祝賀会 午後6時半～
会場: 京王プラザホテル南館3階&5階
記念講演: 「先天性難聴児および高齢者の難聴と人工内耳手術～聴覚の獲得の成果と課題～」
加我君孝先生(国立病院機構東京医療センター名誉臨床研究センター長)

- ・フォーラム記念公開講演 7月16日(日)
午前11時50分～午後1時
会場: 日経ホール(千代田区大手町1-3-7日経ビル)
講演: 「耳鼻咽喉科と地域医療体制」
釜菴敏先生(日本医師会常任理事)

- ・懇親会: 講演会終了後、日経ホール6階

◎東京都耳鼻咽喉科医会学術集会講習会案内

- (第42回臨床家フォーラム記念公開講演の前に行います)
日時: 7月16日(日)午前9時～午前11時30分
会場: 日経ホール(千代田区大手町1-3-7日経ビル)

- *「アレルギー診療に対する安全対策」(共通講習申請)
大久保公裕先生(日本医科大学教授)

- *「慢性感音難聴診療の最前線」(領域講習申請)
小川 郁先生(慶應義塾大学教授)

受講された先生は、(社)日本専門医機構の耳鼻咽喉科領域講習1単位及び専門医共通講習(必須項目)1単位を取得できます。

■医師国家試験の出題減少へ

来年から、2日間に短縮

厚労省は4月13日、毎年2月に実施している医師国家試験について、来年から出題数を現行の500問から400問に減らすと発表した。試験日程も3日間から2日間に短縮する。

厚労省によると、全ての医学部生が5～6年時の臨床実習前に受ける共用試験と重複がある「医学総論」と「医

学各論」の出題を減らす。共用試験は、習得した知識の到達度を見るため2005年から正式に始まった。

15年3月に有識者会議が国家試験の出題数を減らすよう提言。厚労省は今年、医道審議会の意見を聴いて決めた。今年2月の国家試験では、8533人が合格し、合格率は88.7%だった。

■耳鼻咽喉科で初の薬事認証ソフト 眼球運動検査装置用プログラム発売 めまい診断に向けた第一医科の「yVOG」

2014年末に施行された「医薬品医療機器等法(薬機法)」で医療機器として認められた単体ソフトウェア(プログラム医療機器)として耳鼻科領域で初めてその認証を取得した眼球運動検査装置用プログラム「yVOG(ワイボーグ)」を、第一医科が本年7月をめどに発売する。「yVOG」は眼球運動を赤外線カメラで撮影し画像を解析する事で、眼振など眼球運動の特徴を捉えるVOG(video-oculography)と呼ぶ検査手法に対応する。このソフトウェアでは、眼球運動検査装置で取得した眼球運動の画像を解析する。眼振の水平・垂直・回旋角度の算出やその経時的変化のグラフ表示等の処理を、検査中にリアルタイムに行える。撮影データと患者情報の一括管理や、診断レポート作成などのサポート機能も搭載。眼球運動検査用の一般的な赤外線カメラと組み合わせて利用可能。

■国が本腰「なぜに抗菌薬を使うな！」

厚労省は「抗微生物薬適正使用の手引き」の第一版を今年5月以降に公表する。これは、いわゆるなぜ症候群への抗菌薬処方の見直しを促すもの。抗菌薬耐性菌の急増に対応すべく、この手引きを基に、国が医師に処方の見直しを迫る可能性も見えてきた。「日本は抗菌薬の使用量自体は多くないが、セファロスポリン系、フルオロキノロン系、マクロライド系の経口抗菌薬の使用が極めて多い。ギリシャに次いで世界で2番目になっている」。塩崎厚労相は4月8日、第91回日本感染症学会総会・学術講演会と第64回日本化学療法学会学術集会の合同学会でこのように話し、これら薬剤の使用量の削減が日本の課題であると指摘した。加えて塩崎氏は今後、レセプト審査機能の強化によって、抗菌薬処方の適正化を推進していきたいとも話した。

■専門医「義務ではない」を明確化へ 新整備指針の修正も、厚労省新検討会

厚労省の「今後の医師養成の在り方と地域医療に関する検討会」は24日に初会合を開き、2018年度開始予定の新専門医制度について、専門医の取得を全ての医師に義務付けない事を明確にする事などを確認した。座長に選出された遠藤久夫氏(国立社会保障・人口問題研究所長)は「必要であれば、指針の修正もあり得る」と指摘。日本専門医機構の「新整備指針」の修正が視野に入った。

検討会は、地域医療に求められる専門医制度の在り方と、卒前・卒後の一貫した医師養成の在り方、医師養成の制度における地域医療への配慮を検討課題とする。まずは新制度の開始を間近に控えた専門医制度の在り方が議題になる。

厚労省は初会合で、専門医に関する論点として▽専門医の取得は事実上、義務付けられるものではないことを明確にする▽地域医療従事者や休職・離職を選択した女性医師などに専門医の取得を促す観点に配慮した、カリキュラム制の設置を明確にする▽研修の中心は大学病院のみではなく、症例の豊富な地域の中核病院などであることを明確にする—の3点についてどのように考えるかを挙げた。



発行 (特)日本耳鼻咽喉科医会

〒104-0031東京都中央区京橋2-11-8全医協連会館5F
TEL(03)5524-5230 FAX(03)5524-5228
HP: <http://www.jenti.or.jp> E-mail jimu@jenti.or.jp